

第261回 番組審議会

1. 日 時 平成29年4月11日（火） 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 9名
出席委員数 9名（欠席委員数 0名）

○ 出席委員（敬称略）

鈴木 厚人（委員長）
九萬原 敏巳（副委員長）
—以下50音順—
石田 征広
加藤 裕一
久慈 浩介
菅原 正二
升田 久美子
八木橋 伸之
役重 真喜子

○ 会社側出席者（7名）

藤澤 利憲（代表取締役社長）
小原 忍（取締役副社長）
藤原 銀司（常務取締役）
前田 秀男（取締役技術局長）
工藤 浩（取締役東京支社長）
高嶋 昇（取締役営業編成局長）
近谷 利政（報道制作部専任部長）

○ 事務局 佐々木 久仁子

4. 議題 『岩手/宮城/福島合同特別番組
明日への羅針盤～震災から6年ふるさとの未来～』
平成29年3月11日 12:00～13:55

5. 議事概要

今回は、3月11日放送の「岩手/宮城/福島合同特別番組 明日への羅針盤～震災から6年ふるさとの未来～」を審議しました。概要は、以下の通りです。

●岩手めんこいテレビ報道制作部専任部長 近谷からの説明

・今回の番組は、岩手めんこいテレビ、仙台放送、福島テレビの被災3県による初めての震災合同特番。3局一緒に番組を作り、課題を共有することで見えてくるものがあるのではないかとということで放送に至った。「津波」「福島第一原発事故の影響」「街づくり」「未来に向って」の4つをテーマにした。

・「津波」では、県外に伝えることを考えた時に、最も訴える力が強いという理由から「田老の防災ガイド」を選んだ。「原発の影響」では、取材を申し込んだ先から断られ、岩手で風評被害をテーマにすることの難しさを改めて感じたが、韓国からの禁輸措置が続いていることを紹介した。「街づくり」では、県内最大規模のかさ上げ工事が行われている陸前高田市を取り上げた。「未来にむかって」では、大槌町出身の理容師を取り上げた。

・今回の番組を通して被災3県とはいいながら、他の2県の現状、課題について知らないことが多いことを痛感し3県を比較することで見えてくることがあると感じた。また、もっと岩手のことを全国に発信していかなければならないと思った。

●出席した委員からの意見

・3局一緒に番組を作ったことで、各県の被害の実情が浮き彫りになって分りやすかった。

・市の担当者の「震災前も中心商店街は、スカスカ状態でしたから」という発言を聞いて、がっかりした。

- ・番組を見て、復興、復旧というのは時間との勝負なんだなと、それが一番印象に残った。
- ・岩手、宮城、福島を集めると、このような記録になり非常に貴重な番組だった。今後、このような番組を拡大して考えてほしい。
- ・まじめで、前向きに取り組んでいる姿勢がうかがわれ、非常に好感をもった。
- ・6年経過した番組なのだから、問題点を洗い出して議論してもらうべきだと感じた。
- ・最終的には、地域経済をどうやって再生していくのかという経済の問題に落ち着くのかなと思うので、地域経済の専門家との議論があれば良かったと思う。
- ・被災3県、同じ時間が流れたが、それぞれ地域もバラバラで、時間が経つにつれて状況が変わってきていると感じた。
- ・課題、テーマの選別整理の仕方は、非常に良く適切だと思った。
- ・震災遺構を残すかどうかというテーマは、地元の人に考えてもらわないとこちらで言える問題ではないと感じた。
- ・最後の長渕剛さんだけ非常に違和感があった。
- ・福島第一原発の映像を見て、「まだこんなにも進んでいない。これからなのだ」と感じた。
- ・3月11日だけでなく、震災のことを思い出す機会をもっと上手に作っていくべきだと思った。
- ・東北の人たちだけではなく、東京の人、その他の人たちに伝える機会を作っていたらいいのではないか。
- ・突っ込み方、どちらかに偏るというのではなく、公平な取り上げ方などを含めて素晴らしい内容だった。

・福島の問題が最終的な解決されるべき、あるいは解決できない東北全体の問題として残っていくんだということを3県合同でやることによって改めて浮き彫りにできたと感じた。

・震災遺構を正面から取り上げたことは、6年目のテーマとして相応しかった。保存する、しないの結論のみ注目されるが、遺族の気持ちに寄り添っていける話し合いのプロセスとして、東北の問題だけではなく、今後の災害に応用できることだと思うので、注目していきたいと思った。

・羅針盤というタイトルにあるように次に向って頑張っている人を取り上げていたので、重いテーマだが、なんとなく光が見えたようで、良かったと思う。

・福島第一原発の問題は、他のテーマとは質が違うと思う。切り口が難しく、見方によっては、突っ込みが足りないようにも思った。

・見やすく、見終わった後の感じも非常に良く、一つ一つ勉強になった。

・汚染土壌の保管の仕方が間違っているし、なぜ国や自治体がきちんとやらないのかと思ってイライラした。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置
特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び
年月日

※平成29年4月13日（水） 産経新聞 東北版

※平成29年4月22日（土）午前4時12分から4時15分まで
「めんこいテレビ番審リポート」として放送

※据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項

特になし

※次回は、平成29年5月9日(火)12時より当会場にて開催予定です。